

大豊町子どもの農山漁村体験交流計画



令和2年3月
大豊町

目 次

1. 目的	1
2. 大豊町での体験交流の意義	1
3. これまでの取組状況	2
4. 大豊町の現状	5
(1) 体験プログラム	5
(2) 受入体制	7
(3) 大豊町での学校等の現状	8
(4) 受入家庭意識調査	12
5. 継続的な実施体制の構築等に係る課題	13
(1) 受け入れ体制に関する課題	13
(2) 地域資源を活用したプログラムに関する課題	13
(3) 新たなターゲット層の誘客に関する課題	14
(4) 人材の確保と育成に関する課題	14
6. 継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策	15
(1) 受入体制の充実化	15
(2) プログラムの充実化	17
(3) 営業・情報発信	19
(4) 人材育成	20
7. 目標値の設定	21
(1) 受入体制の充実化	21
(2) プログラムの充実化	21
(3) 営業・情報発信	22
(4) 人材育成	22

1. 目的

子どもの農山漁村体験交流は、地域で暮らす住民の所得の向上や人と人との交流による地域の活力の向上を図り、集落で暮らす人々が元気になり、やりがい、生き甲斐、誇りが生まれる生涯活躍のまちづくりに結びつきます。また、こうした観光における交流人口の拡大によって、移住・定住の人口を増加させる取組にも結びつくと共に移住者による体験でのインストラクターとしての活躍の場などにつなげ、新たな雇用の創出、魅力ある移住の促進に結びつくものと考えています。

大豊町では交流人口拡大にむけ、教育旅行を中心に国内・海外の学校の受入に加え、高校・大学・自治体間交流等への誘致活動を推進してきました。今後、体験交流事業を継続し、持続可能なまちづくりを進めていくために、子どもの農山漁村体験交流を具体的に示す指針として「子どもの農山漁村体験交流計画」を策定します。

2. 大豊町での体験交流の意義

大豊町では、体験交流を通じて、住民・地域が“元気”になり、また、町内に“経済波及効果”をもたらすこと、来訪者との縁・絆を活かし、関係人口を創出していくことを目的にしています。

子どもの体験交流では、大豊町の歴史や伝統文化、山間部の産業、暮らし、地域活動など生活の体験をする機会や家庭的な生活、家族的な交流をすることで、子どもの責任感や自尊心を育み、豊かな人間関係を高め、自然と人との共生、食の大切さといった子どもの教育効果を高める交流を目指しています。

大豊町の体験型教育旅行の効果の考え方



責任感や自立心を育てます。

不便な山の暮らしの体験の中から自主自立の態度や助け合いの心、責任感を養えます。

自然と人の共生について学びます。

自然を受け入れ自然と共に暮らす山の暮らしの体験から、自然と人との共生や、環境保全の必要性を学び、自然を大切にしようとする心を育てます。

豊かな人間関係能力を高めます。

農家の方々とのふれあいを深めることで、豊かな人間関係能力が高まるとともに、社会的なマナーや協調性が養えます。

食の大切さを学びます。

農作業の体験や料理の体験を通じて、自然に触れながら、食の大切さを認識します。

3. これまでの取組状況

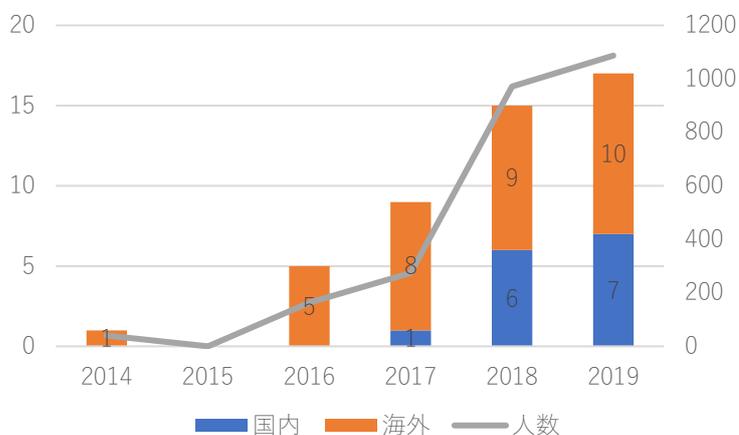
平成 24 年度から、大豊町を含む嶺北地域（大豊町、本山町、土佐町、大川村）で、教育旅行を対象とした子どもの農山漁村体験の推進に重点を置き、受入体制の整備や誘致活動を行ってきました。結果、受注を伸ばすことができ、2019 年度においては計 17 件、1,087 人の受入を行いました。国内については、全て中学校であり、海外については、台湾の高校及び北米、ASEAN 等の国際交流団体となっています。

2020 年度以降においては、2020 年度で 12 校、2021 年度で 9 校の契約が決まっており、いずれも 5 月の春先の受入が集中しています。今後、海外学校および団体の契約も進めることから、受入規模については増加傾向が見込まれます。

【過去 5 年間の実績と今後の契約状況】

年度	国内 (校)	海外 (団体)	計 (校・団体)	人数
2014	0	1	1	40
2015	0	0	0	0
2016	0	5	5	164
2017	1	8	9	275
2018	6	9	15	972
2019	7	10	17	1087
2020	12	-	-	1459
2021	9	-	-	-

教育旅行の受入実績(2014年～2019年)



■初めての受け入れは国際交流

JENESYS（外務省が行うアジア大洋州諸国及び地域との間で行う青少年交流事業）により、2013 年 12 月に 1 団体 40 名、2014 年 6 月に 1 団体 40 名を受け入れました。



夕食づくり体験



感動の別れ



家業体験・伝統文化体験

■台湾からの学生受入の様子



入村式の風景



浴衣着付け体験



感動の別れ

■関西からの中学生受入の様子



茶摘み体験



流しそうめん体験



夕食づくり体験



うどんづくり体験



自由時間



離村式後の別れの時間



囲炉裏体験



川あそび



ものづくり体験

■営業・情報発信への取り組み

大豊町では、プロパー職員を雇用し、山里の暮らし体験、吉野川ラフティング予約受付、民泊受入家庭確保等、受入体制整備を行ってきました。

また、ターゲットに応じたプロモーションツールを作成し、国内及び海外用リーフレットや関西を中心とした営業を実施してきた。



国内用リーフレット・説明資料

海外用リーフレット・説明資料

人材育成への取り組み

民泊マニュアルを活用し、外部講師や事務局員による研修会を定期的で開催に嶺北地域一体の合同研修会や調理実習研修、インストラクター育成研修等を実施してきました。



合同研修会



調理実習研修



グリーンツーリズムインストラクター育成研修



ワークショップによる食事・体験内の整理



留学生を対象にした郷土料理研修



先進地視察

4. 大豊町の現状

(1) 体験プログラム

大豊町の提供する体験プログラムは主に民泊体験・家業体験であり、各家庭で野菜の収穫体験や昭和の遊び体験、周辺散策等工夫を凝らして交流を図っています。大規模の受入プログラムとしては、ラフティング体験やよさこい踊り体験、鯉のタタキ体験等があり、入村式前や離村式後に実施しています。

提供可能なプログラム一覧

項目		料金(円) (税抜)	設定時間	備考
民泊体験		7,000	16:00 ~ 9:00	1泊2食
家業体験		2,315	9:00 ~ 12:00 13:00~16:00	午前・午後
昼食体験		1,000	12:00~13:00	半日体験に追加の場合
ラフティ ング体験	Aコース (RAJ)	6,000	9:00 ~ 12:30 13:00~16:30	所要時間: 3時間30分
	Bコース (Big Smaile)	3,980	〃	所要時間: 3時間30分
よさこい踊り体験①(鳴子のお土産付き)		2,780	9:00 ~ 11:30 13:00~15:30	所要時間: 2時間30分
よさこい踊り体験②(鳴子お土産なし)		1,800	〃	〃
鯉のタタキ体験		2,780	11:00~13:00	所要時間: 2時間(昼食時間含む)
鯉のタタキ体験(先生)		2,780	11:00~13:00	所要時間: 2時間(昼食時間含む)
鯉のタタキ定食		1,500		教員等昼食料金(体験なし。昼食のみ。)
れいほく地域の集落活動を支援する作業ボランティア【トレッキングルート整備】		3,000~	9:00~12:00 13:00~16:00	所要時間: 3時間
れいほく地域の柚生産農家での作業ボランティア		3,000~	9:00~12:00 13:00~16:00	所要時間: 3時間
BBQ		2,315	11:00~13:00	所要時間: 1時間30分~2時間(昼食時間含む)
お弁当		1,000	〃	所要時間: 40分
本部宿泊 所	パークコテージ宿泊料	4,630	チェックイン 14:00~18:00 チェックアウト 7:00~11:00	
	夕食	1,300		
	朝食	700		
	昼食	1,000		
	さめうら荘宿泊料(ツイン1人)	6,000	チェックイン 16:00 チェックアウト 10:00	
	さめうら荘宿泊料(ツイン2人)	5,200	チェックイン 16:00 チェックアウト 10:00	
	さめうら荘宿泊料(ツイン3人)	4,500	チェックイン 16:00 チェックアウト 10:00	
	さめうら荘宿泊料(和室3~5人)	5,200	チェックイン 16:00 チェックアウト 10:00	
	夕食	1,852		
	夕食(DX)	3,241		
	朝食	1,000		
	昼食	1,112		レストランのメニュー
	みどりの時計台(1泊3食)		6,481	

■体験プログラムの様子



ラフティング体験



カツオのたたき体験



野菜の収穫体験



夕食づくり体験



茶摘み体験



昭和の遊び体験



周辺散策



ピザづくり体験



着物の着付け体験



郷土料理体験



川あそび体験

(3) 大豊町での学校等の現状

■おおよ小学校の課外活動について

おおよ小学校では、課外活動として、農作業体験や地域散策、歴史文化の勉強など地域の方と連携して郷土学習を推進しています。

【小学校の課外活動状況】

学年	時期	場所	支援者	活動内容
1～6	通年	教室	地域の方 (読み聞かせボランティア)	おはなし出てこい (読み聞かせ)
1～5	5	野市どうぶつ公園		遠足
1～3	5	交通安全教室	駐在所、警察署	歩行時の安全、自転車の乗り方
1～6	8	教室・学校周辺	保護者・地域の方	愛校作業
1	通年	教室	地域の方 (社会福祉協議会)	ふれあいタイム ・地域の方から凧作りや手話などを学ぶ
1	5	杉地域	地域の方	芋の苗付け ・保育所と合同で行う
1～2	6	体育館	駐在所、警察署	防犯教室
1～2	1学期	夜須		生活科 夜須町見学
1～2	10	体育館	地域の方 (社会福祉協議会)	昔遊び ・地域の方に教わる
1	11	杉地域	地域の方	芋掘り ・保育所と合同で行う
1～6	12	体育館	地域の方	ありがとう集会 ・地域の方へ感謝の気持ちを伝える。
2	通年	杉地域	保護者の方	野菜の苗付け 野菜の収穫
2	1学期	地域	地域の方	地域たんけん ・大杉の道の駅。大杉駅、郵便局、駐在所等
3	1学期	地域	地域の方	地域たんけん ・碇石茶工場、ゆず工場 道の駅、コンビニ、スーパー等
3	11	家庭科室	地域の方	碇石茶おかしづくり
3	1	地域	地域の方	社会科(昔の生活) ・お宝屋敷、郷土資料館
3～4	11	体育館	地域の方 (社会福祉協議会)	大豊小唄 ・地域の方から教わる
4	1学期	地域	地域の方	社会科(消防・警察) ・嶺北消防署、警察署
4	7	杉の大杉	樹木医	杉の大杉について知る
4	2学期	嶺北広域清掃センター	センター関係者	社会科(清掃工場の役割)
4	2学期	甫喜ヶ峰森林公園	森林公園関係者	森林の働き、間伐体験
4	11	教室	高知新聞記者	新聞づくり
4	12	ひろめ市場	地域の方	おおよ家 ・大豊町を知っていただくパンフレット配布(大橋通・帯屋町)
4	3学期	学校ピロティ	森林組合	山の学習 (シイタケのコマ打ち体験)
4	3学期	ぼうむ	ぼうむ	木材加工体験

学年	時期	場所	支援者	活動内容
5	5	杉地区	地域の方 J A等関係機関	米づくり体験 ・苗の植え付け
5	6	香北青少年の家	香北青少年の家の職員	集団宿泊活動（1泊2日）
5～6	6	教室	警察署	スマホ教室
5～6	7	本山小プール		嶺北地区学童水泳記録会
5～6	10	土佐町小中学校		嶺北地区学童陸上記録会
5	10	杉地区	地域の方 J A等関係機関	米づくり体験 ・稲刈り
5	2学期	体育館	地域の方	太刀踊りの練習
5	12	ひろめ市場	地域の方	おおとよ家 ・太刀踊りの披露 ・野菜等の販売活動
6	5	関西方面		修学旅行
5～6	10	体育館	地域の方 (社会福祉協議会)	高齢者の方から学ぶ
5～6	2学期	博物館		社会見学 ・伊野 和紙の博物館
6	11	家庭科室	地域の方	ゆずみそづくり
6	12	ひろめ市場	地域の方	おおとよ家 ・野菜等の販売活動
5～6	12			社会見学 ・歴史民俗資料館
6	3	テレビ局		さんさんテレビ見学

■大豊中学校の課外活動について

大豊中学校では、全校生徒で年2回の清掃活動や、総合的な学習の時間でのフィールドワークの授業など地域との交流を大切にしています。

【中学校課外活動の状況】

学年	時期	場所	活動内容
1	4	ゆとりストパーク	1年集団宿泊訓練
3	4	地域の職場	職場体験学習
全	7 12	大豊町内駅	クリーンアップ大豊 (駅清掃活動)
3	12	大豊町役場	模擬議会
全	6	大豊町中学校	へりべりー校交流授業
3	8	オーストラリア	オーストラリア海外研修
1	通年	地域	1年「総合的な学習の時間」 地域探検
2	通年	地域	2年「総合的な学習の時間」 地域おこし
3	通年	地域	3年「総合的な学習の時間」 フィールドワーク



1年集団宿泊研修



模擬議会



職場体験学習①



職場体験学習②



クリーンアップ大豊(駅清掃活動)①



クリーンアップ大豊(駅清掃活動)②



ヘリベリー校交流授業①



ヘリベリー校交流授業②



1年「総合的な学習の時間」地域探検



2年「総合的な学習の時間」地域おこし①



2年「総合的な学習の時間」地域おこし②



3年「総合的な学習の時間」フィールドワーク

■高知大学との交流

棚田の再生や地域の活性化を目的に、休耕田の棚田を活用して、約 1000 個のキャンドルを並べるイベント「灯りの里」では、高知大学学生と交流してイベントを実施しています。



(4) 受入家庭意識調査

受入家庭の全 84 家庭を対象に体験交流の受入を通じた効果についてアンケート調査を行い、55 家庭から回答をいただきました。

【回答結果】

■ 民泊を始めた事によって、集落が明るくなったと思いますか？

「大いにある」と回答した家庭が 10.9%、次いで「たまにある」が 47.3%、「あまりない」が 27.3%、「ほとんどない」が 15.5%となっています。

■ 民泊を始めた事によって、受入家庭同士の情報交換が増えましたか？

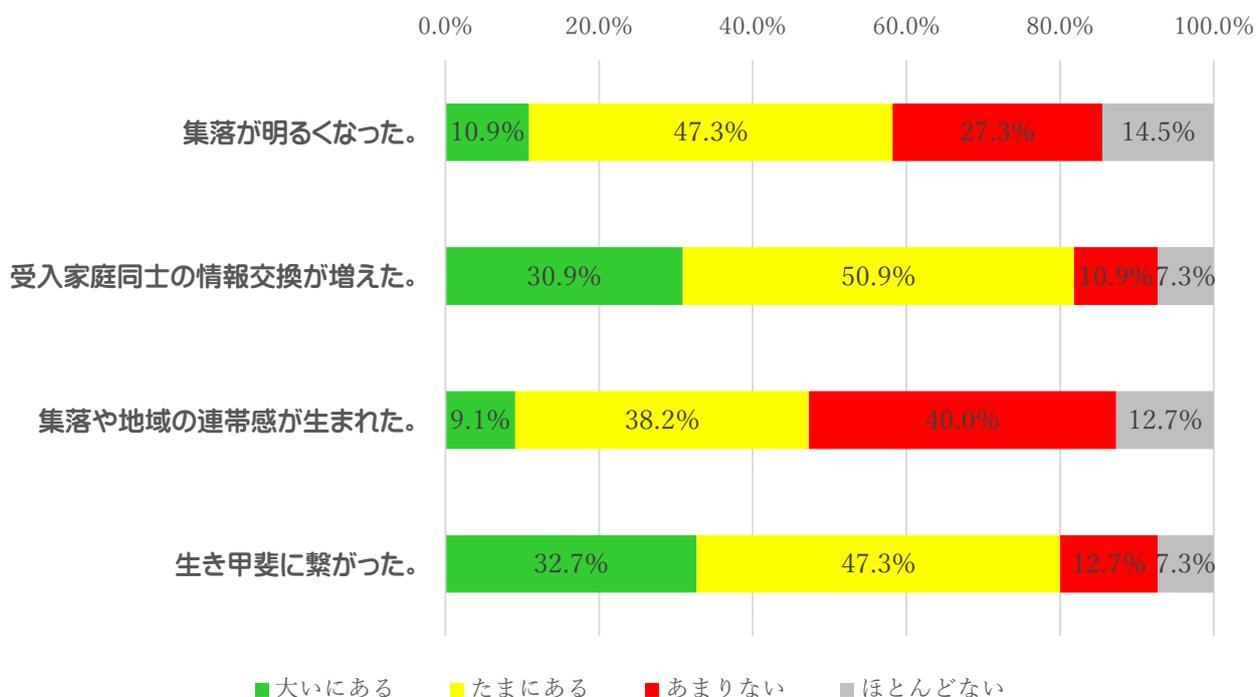
「大いにある」と回答した家庭が 30.9%、次いで「たまにある」が 50.9%、「あまりない」が 10.9%、「ほとんどない」が 7.3%となっています。

■ 民泊を始めた事によって、集落や地域の連帯感が生まれたと感じますか？

「大いにある」と回答した家庭が 9.1%、次いで「たまにある」が 38.2%、「あまりない」が 40.0%、「ほとんどない」が 12.7%となっています。

■ 民泊を始めた事によって、生き甲斐に繋がりましたか？

「大いにある」と回答した家庭が 32.7%、次いで「たまにある」が 47.3%、「あまりない」が 12.7%、「ほとんどない」が 7.3%となっています。



5. 継続的な実施体制の構築等に係る課題

現状の取り組みから、継続的な実施体制を構築していくための課題点は以下の通りです。

(1) 受け入れ体制に関する課題

① 受入窓口の強化

継続的な体験交流にするために、事業性ある仕組みを構築し、大豊町観光開発協会の収益性を高める必要があります。

② 町内外の関係各所との連携

子どもの学びや質の高い交流を推進していくために、受入側の事務局、送り側の学校、旅行者とコミュニケーションを行い、関係部署関係団体との連携を推進していくことが必要です。

③ 町内の学校との連携

町内学校の子供たちが交流事業に参加することで、地域の現状を学ぶ機会にもなり、他学校との交流を推進していくことができます。また、体験プログラムを町内でモニターとして実践することで、プログラムの磨き上げにもつながることから町内での連携を進めることが課題です。

④ 広域連携

今後、新たな受入を進めていくためには、大豊町だけの受皿は限界があるため、嶺北地域や高知県内での受入地域と連携して広域に取り組むことが求められます。

⑤ 民泊受入家庭の充実・拡大

これまでの受入の経験や地域の人口規模から、1回の受入で200人規模までが最大限であることが考えられるため、人口減少傾向である大豊町では、民泊家庭数を維持していくために、受入家庭を拡大し、各家庭が生き甲斐に繋がる取り組みであることが求められます。

(2) 地域資源を活用したプログラムに関する課題

① 大豊町ならではの体験プログラムの提供

大豊町では、ラフティング体験の需要は非常に高く、その他よさこい踊り体験や鯉のタタキ体験を有しています。今後新たなプログラムを構築するにあたっては、地域資源を活かした社会貢献型のプログラムを作ることが求められています。

② 教育的効果の高い交流

現在、民泊を受入れ、各家庭で家業体験等を提供し、入離村式前後でラフティング体験やカツオの薫焼き体験等を実施しています。今後、送り先にとっても交流を通じて子どもたちの「学び」に繋がるようなプログラムを推進していくことが必要であり、また、大豊町のファンになってもらうような交流の仕方が求められます。

(3) 新たなターゲット層の誘客に関する課題

①秋口に教育旅行を行う私立学校への営業

現在5月に集中して、大阪の中学校を受け入れており、今後、新たな受入を進めていくために、関東圏の私立中学校等の秋口の受入を進めることで年間通して安定的な受入を図ることが必要です。

②企業研修への対応

嶺北地域では、研修施設や宿泊施設も充実しているため、施設と連携し、企業研修での受入が今後期待できます。

③高知県内小中高校の交流

高知県内の郷土学習、日帰り修学旅行の一環として県内学校を受入れることで高知県の郷土愛を育くむ体験交流が期待できます。

(4) 人材の確保と育成に関する課題

①ガイド人材の確保・養成

現在、プログラムの受入は観光施設や観光協会職員で対応しており、今後新たな学校を受入れ、新たなプログラムを実践していくためには、交流体験に興味のある地域住民と協働で取り組むことが必要であり、交流体験事業の担い手を確保することが課題です。

②人材の定着化

大豊町では、ラフティングのインストラクターの多くは、春から夏の時期にかけては、大豊町で活動し、秋から冬の時期は町外に出て働いています。インストラクターが秋から冬の時期でも活動できるようにすることで、大豊町に定着して暮らせるような環境づくりが求められています。

③民泊での外国人とのコミュニケーション

外国との交流の多い本町では、各民泊家庭で言葉や文化の違いで外国人とのコミュニケーションが難しい時があるという意見もでています。各家庭とゲストが楽しく交流できるようコミュニケーション能力を充実することが必要です。



6. 継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策

継続的な実施体制を構築していくための課題に対し、以下の解決策を掲げます。

(1) 受入体制の充実化

【解決の方向性】

これまで教育旅行の契約件数を増やし、今後も受入規模を拡大させていくために、関係部署や関係団体との連携、また、農業や商工業など地域の事業者や団体との連携、周辺自治体や県との連携により、受入体制をより充実させるとともに、町と実施主体との協働の取り組みとして持続可能な運営体制を構築していきます。

さらに、受入規模を拡大させていく中で、地元住民の民泊家庭への理解促進を図るとともに、協力していただけるご家庭、また、プログラムを実施する担い手育成にも努めます。



【目標値の設定】

- 民泊受入家庭の増加（7. 目標値の設定参照）

【主な施策】

① 関係部署、関係団体との連携推進

①-1 既存の体制の強化

体験交流を継続していくために、町からの補助制度導入などの施策を検討します。

町内小中学校や高知大学と連携することで、プログラムの試行実施や交流プログラムをつくることで、送り側との子どもの学びや質の高い交流を実施していく体制を強化します。

【主な取り組み】

- ・ 体験交流にかかる補助制度導入の検討
- ・ 町内小中学校や高知大学学生による体験プログラムのモニター実施
- ・ 町内小中学校や高知大学学生と送り側との交流プログラムの実施

①-2 農業・商工業等との連携推進

これまで、過去に「こうち大豊製材所の工場見学」や「林業組合の間伐体験」等も実施してきました。地域の農業・商工業等の事業者と連携した受入を充実させることで、集落や地域の連帯感の創出を図ります。

【主な取り組み】

- ・ 地元企業や商店、地域団体と連携した体験プログラムの取り組み

①-3 周辺自治体・高知県との広域連携推進

今後更なる受入増が見込まれるため、大豊町だけでなく、周辺自治体や県との広域連携の体制を強化します。

【主な取り組み】

- ・嶺北地域一体での受入充実に向けた自治体間および受入家庭や集落の体制整備
- ・高知県と連携したプロモーション活動の推進
- ・高知県内の受入地域と連携した新たな交流のルートプランの検討

② 民泊受入家庭の拡大

②-1 地域内への普及啓発

民泊家庭を増やしていくために、日々の体験交流の取り組みや受入の様子を見える化し、地域住民に情報提供することで、体験交流の参加を促していきます。

【主な取り組み】

- ・ニュースレターによる交流事業の実施結果などの定期的な情報発信
- ・受入家庭のモデル取材および発信による受入家庭確保に向けた民泊家庭に参加したいと思う地域内へのプロモーションの実施

②-2 各家庭訪問・説明会の開催

民泊家庭数の維持および各家庭の受入の質の向上を目的に、家庭訪問や説明会の開催を継続的に実施することで、受入家庭同士の情報交換の機会を増やします。

【主な取り組み】

- ・現在の受入家庭、受入に興味のある家庭への個別訪問や説明会の定期的な開催

③ 体験プログラム受入体制の整備

体験プログラムの受入体制強化を図るために、企画や運営のできるガイド人材確保の確保育成を進めます。

【主な取り組み】

- ・大規模体験プログラムを実施するための担い手参加の積極的な呼びかけ

④ 後継者対策

人口減少に伴い、今後民泊家庭の減少が想定されるため、移住者や現在の働く若い世代に対しても積極的に受入協力を行っていきます。また、ラフティング等の春の時期でしか活動できないインストラクターが大豊町に定着して暮らすことができるようにするため、彼らが活躍できる場として秋冬の体験プログラムプログラムづくり等を検討します。

【主な取り組み】

- ・新規移住者に対する案内・サポート
- ・インストラクターの暮らしフォローアップ

(2) プログラムの充実化

【解決の方向性】

体験交流に付加価値をつけ、充実した交流を図るために、教育的効果の高いプログラム開発を目指します。そのために、現在受入をしている学校や今後受け入れる学校に対して事前事後学習による大豊町の学習プログラムの実践や町内小中学校、大学生との交流など相互交流の仕組みづくりについて検討、実践していきます。



トレッキング整備のプログラムづくり



柚子農家の手伝いをプログラム化

【目標値の設定】

- 教育的効果のある交流事業数の増加（7. 目標値の設定参照）
- 地域課題解決・地域貢献型のプログラム数（7. 目標値の設定参照）

【主な施策】

① 送り先との連携

体験交流を通じて、大豊町をより詳しく知ってもらい、子どもの学びに繋がり、また、訪問後も大豊町と継続的な関係を築くために、教育効果を高めた交流体験への充実化を推進します。

【主な取り組み】

- ・送り先と連携した、事前学習、発表会、実施後フォローの実践
- ・交流体験以外の部分での地域間連携の検討

② 送り側、受入側との交流

教育的効果の高める交流の一環として、送り側と受入側の子ども同士の交流の場を創出することで、両方の学びに繋がる仕組みづくりについて検討します。

【主な取り組み】

- ・町内小中学校や高知大学学生と送り側との交流プログラムの実施

③ 地域資源の見える化

現在、各家庭で工夫し、家業体験や夕食づくり体験を進めています。各家庭や集落でもつ地域資源や歴史はかけがえのない財産です。これらの各々の持つ大豊町の魅力やストーリーを共有することで、各家庭で提供できるネタづくりや体験プログラム開発への効果が期待できます。そのため、各家庭各々で提供する食や体験、地域ストーリー、植物生き物等を共有できるデータベース化を推進します。また、これらを活用して新たな教育効果の高い地域資源を活用した体験プログラムづくりを進めます。

【主な取り組み】

- ・各家庭や集落単位での地域資源のデータベース化
- ・地域資源を活用した体験プログラムづくり

(3) 営業・情報発信

【解決の方向性】

現在、春の時期を中心に教育旅行を受け入れていることから、秋口の教育旅行の受入を図るよう
に営業・情報発信を進めていきます。

また、民泊家庭の増加・維持していくために、本事業の日々の活動を理解、共有するための地域内
への普及啓発・情報発信も積極的に充実させていきます。



【目標値の設定】

■教育旅行・企業研修受入人数の増加（7. 目標値の設定参照）

【主な施策】

①新たなターゲット層への情報発信

現在大阪の学校を中心に春先に集中して受け入れています。今後、秋口の受入を目指すために、
首都圏私立高校等の受入も見据えた営業活動を行います。

【主な取り組み】

- ・首都圏への営業販売および秋口の契約確保
- ・企業研修や合宿向けの営業および契約確保

②地域内への普及啓発 ※(1)-②-1再掲

民泊家庭を増やしていくために、日々の体験交流の取り組みや受入の様子を見える化し、地域
住民に情報提供することで、体験交流の参加を促していきます。

【主な取り組み】

- ・ニュースレターによる交流事業の実施結果などの定期的な情報発信
- ・受入家庭のモデル取材および発信による受入家庭確保に向けた民泊家庭に参加したいと思う
地域内へのプロモーションの実施

(4) 人材育成

【解決の方向性】

受入の充実を進めるために、民泊研修会を充実させ、民泊家庭の交流の場と質の向上を図ります。

また、ガイド・インストラクター人材と連携し、地域資源を活用した体験プログラムの企画づくりを推進することにより、質の高いプログラムをつくとともに、担い手の確保育成を図ります。



【目標値の設定】

- ガイド・インストラクター人材の増加（7. 目標値の設定参照）
- 受け入側（民泊家庭）の満足度の向上（7. 目標値の設定参照）

【主な施策】

①民泊研修会の充実化

現在取り組んでいる民泊研修会の継続・充実を図ります。定期的に体験交流を振返ることで、各家庭の取り組みや良かったこと、課題等を共有する場として進めていきます。

また、外国語や外国文化の勉強、翻訳ツールの使い方等、外国人とのコミュニケーション能力を向上するための勉強会を進めていきます。

【主な取り組み】

- ・民泊研修会による定期的な交流の振り返りおよびプログラムの磨き上げ
- ・外国人対応の勉強会の開催

②体験プログラムの企画づくり

ガイド・インストラクター人材と連携し、体験プログラム企画づくりを推進していきます。

また、体験プログラムの提供にあたっては、試行し検証することで質の高いプログラムづくりが必要なことから、高知大学学生や町内小中学校と連携したモニター実施を推進します。

【主な取り組み】

- ・体験プログラム企画勉強会の開催
- ・町民、町内小中学校や高知大学学生による体験プログラムのモニター実施 ※再掲

7. 目標値の設定

今後の大豊町における「子どもの農山漁村体験交流」を推進するにあたって、10年後の目標値を以下のとおり設定します。

(1) 受入体制の充実化

■民泊受入家庭の増加

人口減少に伴い、10年後現在の民泊家庭の減少が想定されるため、受入家庭は新しい受入家庭を増やししながら、現状維持を目指します。毎年の民泊家庭の登録数で進捗管理を行います。

【目標指標】

	現状	5年後	10年後
民泊受入家庭 件数	86	120軒	120軒（現状維持）

(2) プログラムの充実化

■教育的効果のある交流体験数の増加

送り側の学校と連携し、事前学習・実施後フォロー等の取り組みを実践します。実施した体験交流の取り組みをカウントして進捗管理を行います。

【目標指標】

	現状	5年後	10年後
教育効果のある 交流事業数	0	3件	6件

■地域課題解決・地域貢献型のプログラム数

地域の課題解決に繋がり、社会貢献型の体験プログラムを中心に開発を進めます。営業で提供できるプログラム商品数で進捗管理を行います。

【目標指標】

	現状	5年後	10年後
地域課題解決・ 地域貢献型のプ ログラム数	2件	4件	6件

(3) 営業・情報発信

■教育旅行・企業研修受入人数の増加

新たな教育旅行の受入や企業研修、県内での体験交流を通じて受入規模 2,000 人を目標として営業を進めていきます。毎年の受入実数をカウントして進捗管理を行います。

【目標指標】

	現状	5 年後	10 年後
教育旅行・企業研修受入人数	約 1,000 人	約 1,500 人	約 2,000 人

(4) 人材育成

■ガイド・インストラクター人材の増加

地域資源を活用した体験プログラムを受け入れることのできる地域のガイドやインストラクターを確保・養成します。体験プログラムの運営を担い、指導できるリーダー・サブリーダーをカウントして進捗管理を行います。

【目標指標】

	現状	5 年後	10 年後
ガイド・インストラクター人材	6 名	12 名	18 名

■受け入側（民泊家庭）の満足度の向上

受入家庭が”楽しく”体験交流を継続して取り組まれているか、各家庭対象としたアンケート調査によって定期的に交流体験の満足度について調査し、進捗管理を行います。

【目標指標】

	現状	5 年後	10 年後
民泊家庭へのアンケートで「生き甲斐に繋がる」について「大いにある」との回答割合	32.7%	50%	60%